

清國通商手帳

明治二十八年八月

書政務局

附屬書類添附

公債第三七

受第二二二二五號

東

明治四十二年十月二十六日

在芝罘領事館事務代理

外務書記生 川口千鶴之助

外務大臣伯島時中村壽太郎殿

山東巡撫が本年上期に於て

籌辦を先憲政成績の情形に

上奏する文の進達ノ件

孫山東巡撫の報告の欽遵に本年

上期に於て先憲順備成績並に現

在芝罘日本領事館

在芝罘日本領事館

該文翻譯ノ上及進達を奉御査閲

相成度候敬具

(印)永三商店

山東巡按孫本年上半期於籌
 備憲政成績並現辦アルモノ、
 情形摺
 本年上半期於籌備憲政成績
 善現在於籌辦アルモノ、
 臚列スル共摺仰願、聖主臨幸祈
 竊、本直スル憲政編查館、奏定、章
 程、九年籌備事宜、欽
 遵、内外臣工責成、每六ヶ月毎
 籌辦成績、臚列上奏、並、憲政
 編查館報告、其、備年内、毎年
 二月中又、八月中、一、回先奏上セ、ト、語、
 臣查スル、今年、第二期、
 在芝罘日本領事館
 辦不可キノ事、八項、
 上期、於、籌辦、大、概、
 中、臣、表、樹、勳、
 未任以來、人、
 事實、考、證、
 辦、切、實、
 燈、因、復、
 人、但、
 現在、
 期、
 速、
 右、
 於、
 現、
 各、
 議、
 員、
 七、
 月、

(四月水美三蘭啓)

十日、於テ省城、集テ豫備研究
 議案ハ臣ヲスルニ期ニ先キ主テ起草シ
 及ビ庶務、議ス可キ事宜ノ規畫並ニ以テ開
 會ノ時、提議スニ備ヘテ選舉方法、章程
 照ラシテ單記投票法ヲ用ヘ、次ヲ分テ互選
 現、侍讀銜翰林院編修楊毓泗、該
 局ノ議長トシ、其副議長二名ハ進士候補
 道ニ先キ、安徽靈璧縣知縣干普源
 及ヒ翰林院編修前直隸補用道王
 景禧ヲ選奉レ、並ニ臣、該局、木印ヲ
 給シテ其用、供セシメ、其建築工程、將
 サ、竣工セシレ、一切ノ布置、均ク皆次ヲ
 追テ、辦齊シ時、至テ自ラ議員ノ召集
 在芝罘日本領事館
 該局親臨、開會ノ正式ヲ奉行セシ
 此外資政院ノ選舉、如キ、亦應サ、奏定之章
 程ニ遵テ、辦不可レ、地方自治事項、閣下
 城、鎮、鄉ノ區域ノ劃清スルヲ以テ、着
 手ノ辦法トシ、前キ、等時、辦處、ヨリテ表式ヲ
 定メ、各地ニ命、切實ニ調査、繕造シ、並ニ
 令シテ、因面ノ画カタ、證據トナシ、此レ人九
 月中、完了ス、予、於テ省城、於テ自治研
 究所、章程、照シテ、期ヲ分テ、辦理レ、一
 期ハ、本年、正月、設シ、爾後、變更、通章
 程ヲ酌定シテ、各府、於テ各分、取一處、於テ
 省城、第二期トシ、明年、正月、限リ、一律ニ
 開辦セシ、濟南一府ハ、已、早ク、辦シ

(録月永英三商印)

其附設を省域研究所ハ已ニ五月中ニ
開校シ其ニ歴城縣ノ研究所ニ其附屬
タラシム均ク年内ニ在業ノ見込ナリ現
在ノ款以議局等籌辦處ニ須ク裁撤シ自
治籌辦處ハ獨立一切ノ事宜正サ其ノ
經營中ニナリ他ニ全省人口總數ヲ調査
スルカ如キ事ハ本年四月間巡警道ヲ戶
籍ヲ清查スルノ施行細則ヲ定メ部ノ領ナ
シ式ニ定メ印刷物ニ按照シテ各府州縣
一体ニ分飭シテ遵辦シ九月初十日以前ニ
戶數冊ヲ具報シ章照ラレテ部ニ集ム可シ今
回ノ調査ハ時表於テ戶籍法ヲ實行スルノ
根據ニナリ若シ事案ノ誤ラシキ是レ從テ保

在芝罘日本領事館

甲ノ陋習ヲ除ク事ヲ志レ臣已ニ嚴ニ督責
ヲ行ヒ各州縣ニ呈飭シテ務ク確數具テ數
目ヲ得賜誤ラズシテ更ニトシ現ニ各州
縣ノ具報ニ依リ成績宜ク全部完成ノ
上報告ヲ為ス可シ全省ノ歲出入總數ヲ
調査スルカ如キ其初メ困難ナシ其關係スル所
甚ク大キ本年四月中ニ於テ是章照ラレテ
清理財政局ノ設置ニ施行細則ヲ定メ
役員ヲ派遣シテ清查セリ又現ニ司道局
取等ノ詳報スルニ取扱ハ正雜ノ各
項ノ經費ニ就テ委員ヲ派シテ期限内ニ月
報年報ヲ作り財政局ニ交付審査シ右
地ノ年報モ亦式ニ遵テ調製スル決メテ誤リナ

(附片永美三商局)

奏定之九月期限、光緒三十四年中、
報告、陸續呈送、不可、省城、通商、
於、右、級、審、判、廳、之、籌、辦、ス、カ、如、キ、五、月、
則、今、等、全、局、以、上、豫、規、畫、ヲ、モ、五、月、
籌、辦、專、處、ヲ、設、立、シ、首、ト、シ、審、判、人、才、
ヲ、養、成、ス、以、テ、第、一、着、手、手、段、ト、シ、現、在、
法、政、學、堂、以、講、課、班、ヲ、附、設、シ、在、地、命、
審、判、委員、及、曾、州、縣、候、補、道、府、
ト、人、ヲ、充、テ、均、シ、講、課、班、ヲ、專、ラ、民、商、
刑、訴、訟、各、法、及、外、國、審、判、例、ヲ、習、シ、
驗、加、ル、ン、ト、以、テ、復、テ、法、政、學、堂、人、員、
ヲ、レ、テ、カ、別、ニ、試、験、ヲ、為、シ、各、局、署、
封、帛、理、ト、シ、識、見、モ、リ、シ、練、習、資、
員、以、テ、明、年、

在芝罘日本領事館

開、聽、時、備、ノ、推、事、一、換、發、案、ノ、監、
補、助、機、關、ト、シ、法、政、學、堂、及、換、發、吏、ノ、
於、テ、欠、リ、可、カ、ル、ニ、シ、テ、現、巡、
司、法、政、學、堂、一、班、ヲ、設、ケ、シ、
一、班、ヲ、附、設、セ、シ、ス、其、次、
分、配、レ、明、年、ノ、開、辦、一、
以、テ、限、リ、ト、ス、ト、モ、此、事、
下、人、民、利、病、ノ、聞、ス、豈、
サ、ク、濟、南、府、ノ、如、キ、既、
ナ、リ、即、チ、高、等、廳、丞、ヲ、
所、以、テ、同、レ、ク、同、レ、ク、
簡、ハ、右、情、形、ノ、異、ニ、自、
右、級、審、判、廳、ヲ、設、ク、

(附片永卷三前附片)

等ノ官ヲ共ニ設クテキモ若干期以テ時宜ニ
 商會ヲ新章ニ違フナク現已ニ役人ヲ
 依テ右商會ニ赴キ一切ヲ調査シ得未ノ為
 地亦ヲ設置シ十月ヲ限リテ省ニ返リテ報告スル
 事方ナク成算アリ該廳ノ新築ニシテ當
 サ地因リテ宜キヲ制シ或ハ新築シ或ハ借シ等靡
 費ヲ改サバシテ事ノ期ス然トモ省城濟南
 府ノ高等審判廳ニ各處ノ模範
 則宜ク規模略ホサス可シ現ニ游擊守衛門
 官ヲ建シテ京津ノ各級審判所ニ
 發審公堂或ハ各團裁判所ノ因テ調査
 シテ以テ酌量ニ變計ニ便シ年内ニ議定シ
 得可レ
 聽州簡易識字學塾ノ創
 在芝罘日本領事館

設スル本年五月間提學使ヲ竹間章
 ナニ奉リ具テ先テ各屬ニ通飭シ該章程
 從テ開辦セシメ先テ省城ニ十餘ヶ所ヲ設
 レテ之ヲ倡ラズ近頃各聽州縣ノ陸續トシテ
 報告スル所ニ辦理ニ端緒ヲ開キ未ク齊
 東、蘭山等ノ如キハ何レモ切實ニ經營シ學生ノ
 就學亦頗バ多クシテ提學使ハ本月役員
 ノ派シテ各地ニ赴カレテ地方官及ニ縣視學ノ
 集メテ詳切ニ勸誘シ又談話會ノ文章
 ヲ以テ告スルヲシテ萬人ニ知ラシメテ
 人生自來ノ要因ナリ知ラシム
 聽州縣巡
 政言ハ年内ヲ限リテ大体於テ規模ノ目大ニ東
 省ノ百餘ノ州縣カ巡政言ヲ岸辦スルガニ

(附片永卷三兩府)

三年に亘り巡官、区官、主事、照ラレテ増設
 不、虫、子、至、貴、ノ、難、等、時、ニ、苦、シ、未、ガ、完、備、ニ、至、
 不、近、頃、巡、教、言、道、ヲ、呈、送、シ、未、ヒ、久、在、地、ノ
 調、査、直、表、冊、ヲ、一、層、取、細、稽、核、シ、分、筋、ト、シ、テ
 一、体、ニ、改、良、シ、侍、ワ、可、レ、巡、教、言、教、練、取、直、ニ、至、
 已、省、城、ニ、一、ヶ、取、ヲ、設、立、シ、其、他、ノ、各、州、縣、已、
 一、廠、車、ニ、辦、理、ス、ル、所、レ、タ、リ、尤、ノ、是、レ、等、ノ、第、
 二、年、ニ、於、テ、應、サ、シ、等、備、ス、ル、キ、事、宜、ニ、シ、テ、其、中、
 已、辦、レ、タ、ル、事、ヲ、又、一、辦、レ、ワ、ル、事、ヲ、或、一、辦、レ、カ、ン、ト、
 不、リ、且、司、道、員、紳、ヲ、率、サ、テ、隨、時、妥、
 速、ニ、籌、辦、シ、笑、心、笑、カ、ラ、以、テ、行、合、進、歩、ア、ラン、
 以、テ、其、業、ク、高、厚、ト、鳴、慈、ノ、高、一、ニ、是、也、本、年、
 上、期、於、テ、籌、備、ス、ル、キ、事、宜、改、成、績、好、シ、現、在、
 在、芝、罘、日、本、領、事、館、
 辦、理、情、形、ヲ、臆、陳、ス、ル、若、摺、伏、ト、シ、上、ノ、
 聖、鑒、金、ヲ、乞、フ、

(神戸水災三箇月誌)

明治四十一年十一月十二日接發

公第二〇五號

書政務局

受第二二二五三七號

符屬書類添附

明治四十一年十一月七日

在奉天

總領事小池張



外務大臣伯爵小村青太郎殿

地方

第3門

奉天諮議局會議終了身開會中状況報告

奉天諮議局ハ去清曆九月一日開院式ヲ舉行シ會議ハ四日間ヲ結了スル豫定ナリシカ議事ハ都合ニ依リ十日間延期ヲ為シ通シテ五十日間會議ヲ繼續シ昨日無事議事ヲ結了セリ今其議事經過ハ二付參考ト十九ハキ事實ヲ調査添付レ報告及候

在清國奉天日本總領事館

敬具

奉天省諮議局ハ去レ清曆九月一日ヲ以テ各省一齊ニ開院
 式ヲ挙行セシ會議ハ四日間ヲ結了スル豫定ナレシ議事
 都合ニ依リ十日間延期サレ前後五十日間ノ會議ニシテ昨
 二日迄議事ヲ繼續シ開院トナレリ今其ノ議會ノ經過内
 容ヲ内偵調査スルニ下リ如シ

一 議員

奉天全省諮議局議員五十名ノ種別ヲ見ルニ漢人
 四十四名滿人五名蒙古人一名ニ區別シ之ヲ年齡別ニスレ

ハ 七十歳以上 一

六十歳以上 二

五十歳以上 一三

在清國奉天日本總領事館

四十歳以上 一八

三十歳以上 一六

以上ノ如クミレテ四十歳以上ノ者最多数ニシテ三十歳以上
 之ニ次リ而シテ最年長者ハ七十四才最年少者ハ三十歳
 ナリトス

之ヲ選舉資格ニ就キ區別スレハ次ノ如シ

資産ヲ有スル者 十人

學校出身又ハ學位アル者 二十七人

公職ニ従事セル者 十三人

ニシテ學校又ハ學位出身者最多数ヲ占メ其他ハ過半
 數ニ達セズ學位又ハ學歷ニ區別スレバ次ノ如シ

進士 二

舉人 七

貢生 一五

附生 一一

日本留學生 四

其他 一一

而シテ其職銜ハ知府銜ヲ有ルモノ一アノ外ハ知縣銜
最モ多数ヲ占ム

如斯議員ハ三十年以上五十年以下ノ者最多数ヲ占
メ曾テ官職ノ経験アルモノナリ又出身モ華人
以上ノ者僅少ナリトス

二、議長及役員

議長一名副議長二名常議員十名ノ役員ヲ之等

ノ開會第一回ニ互選セル処ニシテ議長吳景濂ハ

前師範学堂監督兼教育總會副會長ニシテ

在清國奉天日本總領事館

年三十七號遠州ノ華人ナリ曾テ日本ヲ視察セル下

アリ排日貨運動ノ主動者ナリ

副議長孫百解ハ年四十六奉天承德縣ノ進士ニ

シテ日露戰前ハ公議會總理トシテ奉天實業界

ニ勢力アリ且性年家屋税問題ニ付商人カ連合

及對セル時自ラ其素ニシテ家屋税撤廢ノ運動ヲ

ナシ其後奉天商務總會總理ニ奉テラレシモ時

總督ハ之ヲ認可弁リシトアリ之レ又排日貨運

動ノ主領ニシテ曩ニ奉天諮議局ヲ代表シテ日清

滿州協約廢棄ヲ電奏セルコトアリ

副議長袁金鎧ハ年四十四遼陽州ノ歲貢生ニシ

テ多年公職ニ在リ其成績ニヨリ選出セラレシモ他

ニ特記スルハ復歴ナシ

要之奉天諮議局知事人物ハ吳議長ト孫副議長
長兩人ニシテ他一般議員中特記スヘキ經歷凡モ一七

三、黨派

開會當初ノ事ナレハ未ダ黨派ノ如キモノヲ見セシモ
議長選舉ニ當リテ吳景濂二十八票孫百斛三
十二票ヲ得吳ハ官吏及教育界出身ヲ孫ハ實
業家側ニ勢力アルニ依リ或ハ官吏及實業家ニ依
ニ分ルニアラサヤト推測セラレタルモ終ニ何等傾向ヲ
見サレタリテ黨派ヲラキモノナシト思料セラル
之レ本會議ニ地方的利害問題ナク諮問案ハ
ナリニ由ルベク將來ニ在リテハ吳及孫ニ依リ分レ
官吏派ハ吳ニ屬シ實業派ハ孫ニ屬スニ至ル
在清國奉天日本總領事館

ヘヤカト思料セラル

四、會期

清曆九月一日開院式ヲ舉ケ四十日ヲ以テ開會ノ
豫定ナリシモ議事都合ニ由リ十日間延期セリ

五、諮問案

是レヨリ先キ錫良總督ハ各司道ニ命ジテ諮問
案ヲ作ラシメ總督ハ之ヲ取捨シテ左ノ二十五個條ヲ
諮問セリ

一、民政

地方自治經費支出ノ方法
煙害禁絶ノ辦法
巡警ヲ整頓
救貧事業推廣

| | | | | |
|--|---|--|---|--|
| 二、教育 學校推廣、專二經費支出之方法 學區、規定 學官、新設 三、司法 登記事件、開始法 監獄經費、支出法 | 四、實業 農會、新設 秋收、獎勵 豆業、擴張 蠶業、獎勵 羊毛、改良 | 在清國奉天日本總領事館 航路、疏濬 金融、整理 商業關係研究 商業智識普及 礦務、整理 | 五、財政 地方稅、負擔 租稅、整理 地租、整理 鐵道、制限 牛馬稅、整理 | 六、議員提案及人民之請願 議員提案八百二十餘件、下之七 諮詢案、大同 |
|--|---|--|---|--|

小異ナルヲ以テ強シト議セシムルモナク討議セシムル
提案ハ海龍開原鐵道問題及塩務整理二案
ナリ

以上二案ハ共ニ議員ノ好ムル問題ニシテ夜ニ入ルモ猶
議ラズモ何レモ審査委員ニ附托セリト云フ

人民ノ請願ハ小教ニシテ議事トセルハ單ニ金州旅人
ノ請願ナリシカ其理由不明ナリトシ廢棄セシ其他
農學堂生徒職員及教員不信任請願等モ

一ニテ請願トナサズ

要スルニ今後ニ於テ東權ノ請願ハ益々多ク人民ノ不
平ハ皆諮議局ノ請願トナル現象ヲ呈スルナラシ

七、會議

議員ハ頗ル熱心ニシテ強シト飲席者ナリ殊ニ日曜

在清國奉天日本總領事館

日ヲ除ク外ハ毎日休會セズ甚シキハ夜ニテテ教會

スルコトナリキ

如斯熱心トモ一般的智識ニ缺クセル清國人ナレバ
各種専門的ノ諮問案ハ大ニ苦ミタル頃キ下リテ

前日前者議事日程ヲ定メ各人ニ研究案ヲ
割當テ其當日ニハ其担当案ニ就キ各々演説ス

ルニシテ隨時討論スルカ如キコトナリ議場頗ル
靜寂ニシテ意見ノ交換ナク毎日二三ノ演説ニテ可

否ヲ決スルコトナレバ少シノ活氣ナク議會ヲ觀

ナカリ

議員ノ意見氣込如斯ナラシテ議案ニ對シ演
説ノ如キモ亦皆事實ニ近ニシテ言論ヲ事トシ詭
同案ニ對シ議決ハ採ルニ足ルベキモノナク要ニ詭

議局ノ意見トシテ余ノ感心スヘキモノアリ
故ニ議局ノ行動ニ就キ注意スルニ清國ニ有
カニ効果ヲ興フルモノニテスレバ單ニ督撫カ一般
ノ意向ヲ探ソルノ用ニ供スルカ又ハ申譯的ニ議
局ニ各種問題ニ就キ諮問スルニ過ギサレバ感心ア
リ本年ハ最初ノ開會トシテ比較的輕便セリト
雖モ議事法其他ニテ研究ヲ要スル點多クアル
ヲ見ルニ依令ハ彼ノ互選法ノ如キ開票ニ當リテ投
票人員ト投票數ト對照スルコトナク開票ニシテ
以テ者選者票數ト投票數トノ關係ハ明ナリ
ルニ半數以上トシテ當選セリトスルカ如シ
又互選ニ際シ議員相互ノ打合ナク爲メ一人ヲ得
ルニ多數ノ同票者ヲ見ルコト屢々アリ

在清國奉天日本總領事館

常議員選舉及資政院議員選舉ノ如キハ
多數ノ當選者アリテ併モ規定ノ年數ニ達セス
ト多數由選舉セルカ如キトアリ之ニ各議員カ互
ニ打合ナクニ由ルモノニテ要スルニ慣ルニ外ナラス
又議員ノ資格ノ一要件トシテ文職ニモトメ
條件下ニ由リ皆文職ニ爲メ互選ニ際シテ不明
ノ投票又ハ白紙ナク開票ニ際シテ此等ノ疑議ナク
然レモ清人ハ寫字ニ暗キ爲メ選舉ニ多クノ時間
ヲ要スル一欠矣アリ
南也言語相違他日國會開議際ニテ其不
便ヲカルベシトハ始テ顧慮セラレタル外ハ現ニ序
天語議局ニ於テハ最初ニテハ南古人ノ書記ノ
報告ハ南清語ニテ不明ナリトテ之ヲ他清人ノ

書記ニ再讀セシメタルコトアリ又他清人ノ書記モ亦
其主語言ニテ報告スル為メ極メテ異様ノ感アリ
八、一般人ノ諮議局ニ對スル意向

物見好キノ清人ハ最初ニ在リテハ多數ノ傍聽人
アリテ強シク滿員ノ如キ日アリレカ其後ニ至リテハ多
數ノ傍聽者ヲ教育會商會等ノ手ヲ經テ
配布セシニ係ラス傍聽者頗ル少ク之レ傍聽ス
ルモ何等ノ趣味ヲ感スルナキト諮議局ノ設備カ防塞
ノ用意ナク頗ル寒キト起因セリ若シ諮議局會
議ガ直接人民ニ利害關係アリテ趣味アルカ又活
氣アル討論アルニ於テ尚多數ノ傍聽者アリシ
ナラン

九、諮議局ノ将来

在清國奉天日本總領事館

愈々本議會ハ院院トナレリ而シテ今期ニ於テハ
天詔議局ノ浩氣ナカリレハ議員中學術經歷
等ニ優選者少ナカリレハ其主因ナルモノ、如シ然レ
足持ニ大ナル失体ナカリレハ議員及監督官署
ニ於テ模範諮議局トシテ得タル名望ヲ失ハサテ
ハカ為メ專心注意シタル結果ナラスハ非ラス且又
各地諮議局ノ問題トセル滿州協約ニ付テハ奉
天ニ在ル為メ比較的其性質ヲ知ルコト深ク今更
此ヲ問題トシテ質問演說又ハ廢約運動ヲシ難
キカ為ナリ
然ルニ直隸省諮議局ノ發起セル憲政研究會
ノ如キ、蘇州諮議局ノ上海ニ於テ各省諮議
局連合會ノ如キニ對シテハ何レモ賛同セルヲ以テ將

東武の問題ノ生ズルニ於テハ奉天諮議局モ亦
動カコトアラント思料ス
以上

在清國奉天日本總領事館

REEL No. 1-0675

0074

明治四十二年十二月十四日接受 主管 政務局

公信第一八九號

受第二二二八號 第一課 係

明治四拾貳年拾貳月七日

在南京

領事 井原真澄

外務大臣伯多野少村壽太郎殿

第3門

江蘇諮議局ニ関スル件報告

江蘇諮議局ハ昨々本月二日開會式

ヲ舉行致候委員同開會中兩江總督及

江蘇巡撫ヨリ附議ニテ案ハ

兩江總督自提出案

一如何ニシテ銅錢ノ市場ニ充満スルヲ防阻

在南京日本領事館

スルヤ

二各州縣ニ調査ハ如何ニシテ人民ノ反對ヲ受ケス

詳細ニ調査スルヤ

三如何ニシテ淮揚水利整理ノ得ルヤ

四如何ニシテ南京城内鐵道ヲ延長シテ

蘇湖ト接続スルヤ

江蘇巡撫提出案

一自治經費籌定ノ方法如何

二各州縣衙門カ銅錢下落ノ爲メ非常

ニ困難スルヲ以テ之カ救済策如何

三荒地整理方法

四農會聯合農林公司組織方法

五阿片吸食禁止官行方法

| | |
|----|--|
| 六 | 印紙稅實行方法 |
| 七 | 厘金徵收、法改良策 |
| 八 | 土地家屋登記簿稅徵收方法 |
| 九 | 度量衡改正擴張方法 |
| 十 | 共進會開催方法 |
| 十一 | 十四案ニシテ右議案タル者悉ク諮問案ノ 体裁ニシテ一又總督巡撫ニ於テ具體的ニ 實行方法ヲ洋細ニ立案提出ニタル者無 之隨テ諮議局議決、如キモ不得西領ノ 決議ヲ爲シ居候右地方官ノ提出案以外 ニ議員及ヒ人民ノ清願並ニ建議案多數 ヲ以テ最モ執心ニ討議セラルルハ鉄道諮 題教之同問題ニ有之候要スルニ今因ノ諮 |

在南京日本領事館

議局、第一回ノ開會ニシテ決議案等不
 得西領ノ案多數ヲ占メ居候ハ共ニ蘇
 者ヨリ撰出セラルル議員ハ靜肅ニ討議
 温和ノ態度ヲ以テ地方ノ利害得失問
 題ヲ商定シタル爲メ決議ノ模樣ヲ觀察
 ニシテ地方ノ關係ニ如何ナル意思ヲ有ス
 ヲヤラ願知スルヲ得候間決議案中重要
 ナル事項ハ進シ可及報告候條於段不
 取敢報告申進候敬具

通方

明治四十二年十二月十八日接受

警務政局

公第 三九號

受第 二二八七

第一課

明治四十二年十二月六日

在 杭州

領事館事務代理池部政次

外務大臣伯爵小村壽太郎殿

浙江諮議局閉會ノ件

四十日間ノ會期豫定ニテ十月十四日開會セララル
 浙江諮議局ハ議事未了ノ故ヲ以テ十日間延
 期セラレ去ル二日閉會式ヲ舉行ス本會期ハ初
 次創辦ノ事トテ往々秩序ヲ乱シ又夕新聞社トノ
 交渉議長ノ人身攻撃等ヲ惹起シ稍々世
 上ノ非難ヲ來シタレ法律案建議案等ノ重
 要事項ヲ議定シタルモ亦少カラス而シテ此等
 諮議局通過ノ諸種ノ案件ハ更ラニ巡撫衙門
 會議廳ノ審議ヲ經テ公布セラル、否ナリ
 右及報告候敬具

在清國杭州日本領事館

明治四十二年十二月十八日接受 警務政局

公第一四〇號

第一課 二二八七九號

明治四十二年十二月六日

在杭州

領事館事務代理池部政

外務大臣伯爵小村壽太郎殿

巡撫衙門内會議廳開設ノ件

今回巡撫衙門内ニ會議廳ナルモノ臨時開設

セラレ浙江諮議局ヨリ移附セラレタル該局議

決ノ各種案件ヲ審査シ之レカ採否ヲ決

定スル機關ニカル本會議廳出席議

員ハ巡撫以下各司道員各局處ノ總

在清國杭州日本領事館

辦提調其他巡撫司道ノ特ニ指定シタ

ル官吏ヲ以テ組織セラレ目下追日前記ノ

案件ニ付キ兼用議ヲ凝ラシ居レ凡未タ公布

セラレタルモノナリ

右及報告候敬具

37

第3門

信第一八六號

明治四十二年十二月九日

在南京

領事 井原真澄

外務大臣伯爵山本壽太郎殿

江蘇諮議局ニ於テ決議シタル鐵道ニ関スル件

江蘇諮議局ニテ決議シタル鐵道關係案ハ三件

ニシテ

一 兩江總督提出ニ係ル南京蕪湖間鐵道布設
ニ関シ布設費用調達ニ関スル件

本件ハ端總督時代ニ官民合同ニテ南京城内鐵
道ヲ延長シテ蕪湖南岸ノ西地ヲ約テ十哩連絡
スル豫定ニテ已ニ顧問技師ヲ派シテ該線
路ノ踏査丈方ハ相濟シ居候本線布設ニ関シ
滬甯鐵道沿線ヲ距ル數哩ノ地ニ布設スル者ナ
レハ滬甯鐵道布設資本借入契約ニ基テ英
國ノ會社ニテ布設スルキ旨照會シ来リタル由ニ
有之候兩江總督ハ右申込ヲ排斥シテ清國人ノ
資本ヲ以テ布設セント欲スルモ其資金調達ノ途
ナキ為メ之ニテ諮議局ノ議ニ附シタル次第ニシテ
諮議局ハ

蕪甯鐵道線路ハ安徽江蘇ノ間ヲ跨リ以テ
兩者ニ於テ其資金調達ノ方法ヲ講スル者ナレバ
本鐵道江蘇省内ノ距離及ビ線路ノ經過地ニ如

第一課

何十名城巨鎮アルヲ調査ノ上其布設資金ノ額
及ヒ將來ノ收支等ヲ計算スルノ必要アルヲ總督
於テ前ニ外國技師ヲシテ踏査セシメタル測圖並ニ
南京城内鐵道布設資金其利益ニ関スル詳細
ナル計算書ヲ提出セシ一面總督ヨリ安徽省ノ
紳士ニ後牒シテ江蘇省ノ紳士ト會議決定ス
ル様取計ハレタト議決致候

二 奏办蘇省鐵路有限公司ノ請願係瓜州
清江浦間鐵道線路通過地ニ関スル件

蘇省鐵路公司ノ請願ノ主意ハ今會社北部線最
初ノ計画ハ海州ヨリ清江浦徐州ヲ經テ河南ニ
達スル豫定ニシテ當時津鎮鐵道布設後契約成
立ノ時ナリシヲ以テ清江浦瓜州線ヲ除外シ置キ

在南京日本帝國領事館

タリシニ其後津鎮線ヲ津浦線ニ更改セシムルヲ
以テ今會社株主會議ニ於テ北部線ヲ瓜清徐
線ニ改メテ本線ヨリ以テ幹線トスルヲ決議シ郵
傳部ニ布設許可出願中ニ其通過スルキ線
路ハ運河沿線堤防ノ関係上東堤西堤何レヲ選
擇スルキヤ議決ノ上總督巡撫ニ申報アリタト云
フニアリ

右ニ對シ諮議局ハ

山陽寶應高郵三縣境内ノ線路ハ西堤ヲ通過
シ清河境内ノ何處ニ於テ運河ヲ横過シテ清
徐間ヲ連絡スルヤハ蘇路公司ニ於テ隨時酌量
シ即伯以南ハ河潮混合スルヲ以テ西堤ノ盡ルル
ニ水運ニ防碍セシムル様橋梁ヲ架設シ其間ノ工事

等々開シテハ會社自ら測量ノ上當時ノ輿論ニ隨ヒ
斟酌進行スベシト決議致候

三 海州方面撰出議員ノ提出ニ係ル海州清
江浦間ノ鐵道ヲ布設シ依テ以テ難民ヲ
救助スルノ建議案

本案ハ昨年及ヒ本年海州ノ水災ノ為メ難民非
常ノ多數ニ達シ在地方ヨリ難民等ハ幾多ノ
團隊ト成リテ他地方ニ移轉流寓シ大ニ他地方ノ
安寧ヲ防礙スルリシテ地方官ハ其経過スル路上ニ
官吏ヲ派遣シテ追送スルノ手段ヲ採用シツァリ
夫レガ為メ少ナカラサル地方ノ經費ヲ支出スルノ中要
アリセシニ對シ代用善後策トモ稱スルマキ者ニシテ
築海清鐵路以工代賑案ト名ケ諮議局ノ決

在南京日本帝國領事館

議ハ左ノ通りニ存セ候

海清鐵路ハ前總督端外國技師ヲ派遣シテ測
量セシメ平面測量ハ已ニ一律ニ完結シ本年海州
ノ水災寄童轉瞬已ニ冬令ニ交フ官賑已ニ普
及シ難ク義賑更ニ驚未ヲ成ス若シ急ニ路
工ヲ籌リナ藉リテ賑撫ニ次負セシバ一旦飢民南下
シテ食ヲ求メハ中ス全者ノ治安ヲ擾乱スルニ至ラ
ン決議ノ上總督巡撫ニ請ヒ奏請ノ上大清銀
行ヨリ利息ハ三百万元ヲ借入シ速カニ海州清江
浦間ノ鐵道ヲ布設シエヲ以テ賑ニ代ヘシヲ以テス
計ルニ冬春ノ土石各工ノ賃銀ヲ支払フトキハ百万
ノ災民百万ノ實惠ヲ受ケ得ルハトナラス即チ國家
ハ百万ノ賑款ヲ節スルコトヲ得ル者ナリ借款築路ノ

辦法及其計畫ヲ議決スルヲ左ノ如シ

一 總督巡撫ハ會奏ノ上大清銀行ヨリ利息付三百萬元ヲ借入レ速カニ海清鐵道布設ニ着手シエラ以テ賑ニ代フルトシ年内ニ先ツ百萬元ヲ支出シ以テ期ヲ刻シテ工事ニ着手スルニ便ニセシメテ請フ其元利仕松ノ方法ハ左ノ如シ

甲 借款三百萬元ニシテ常年利息七厘三十年ヲ期限トス

乙 前十年ハ利息ソシクヲ払込ミ後二十年間ニ元利ノ分割仕松ヲ行ヒ別ニ元利表ヲ付ス

一 全線工事ニ約四百五十萬元ヲ要スルヲ以テ大清銀行借款ニ係ル三百萬元ノ年賦償還及ヒ不足百五十萬元ハ統テ海屬及ヒ各州縣紳民

在南京日本領事館

ニテ担任ス其分割担任ノ方法ハ

甲 海贛沐紳民ニテ三百萬元ヲ担任シセシメテ三十年間ニ償還スルヲトシ株金三十元ヲ引受ル者ハ毎年一元ヲ交付シ三百元ヲ引受ル者ハ毎年十元ヲ交付ス餘ハ之レニ準シ年内ニ一律ニ引受ヲ完結ス

乙 其餘ノ百五十萬元ハ別ニ各府州縣ニ向テ株ヲ募リ約二年間ヲ以テ募集完結ノ期トス

一 總督巡撫ニ請ヒ會奏ノ上高知海清鐵路有限公司ヲ設立シ蘇路公司ノ權利ヲ引受ケ悉ク蘇路公司ノ規則ニ遵テ辦理シ並ニ農工商部度支部郵傳部ニ後牒ノ上奏

請裁可ヲ經テ別ニ詳細ノ規則ヲ訂立シ總
 協理ヲ公舉シ部ニ呈シテ登記シ置ク丁
 一、總督巡撫ニ請ヒ專奏ノ上海清鐵道竣工
 シタルキハ即チ淮北ノ官運商運ニ係ル各
 塩ヲ鐵道ニテ西壩迄ノ輸送ヲ引受ケ再
 ヒ船運ヲ藉リ密輸スルコトヲ得サラシムル丁
 一、海屬外屬ヲ問ハズ株ハ均シク株金払込
 日ヨリ起算シテ利息ヲ仕払ヒ隨時株券ヲ
 交付シセシメ利札ヲ附シ利息ハ常年七厘
 トシ其餘ノ利益ハ株ニ應ジテ均分シ列車
 運轉ノ翌年三月一日ニ利札ニ照シテ利息
 ヲ支払フ

一、總督巡撫ニ請ヒ奏請裁可ノ上ハ海關
 在東京日本領事館
 沐州ノ各縣ニ命令ノ上登記簿ヲ制定シ議
 員ト會同ノ上正紳ヲ擇舉シ分別株ノ
 勸誘ヲ行ヒ株式應募者ハ均シク親ヲ株
 數ヲ登記簿内ニ記入シテ引受ノ証批ト
 為ス

一、海屬紳民ニシテ一面ニ払込ヲ了セトスル者又ハ
 數年分ヲ一時ニ払込マントスル者ハ其便ヲ聽ク
 以上ノ七個條ハ辦法ヲ説明シタル者ナリ

一、會社ノ利益ニ關スル計畫

甲、運塩四百八十五万包每包運賃拾仙年收
 入四十八万九千九百九十九元

乙、糧米輸送三百萬石計百斤ノ運賃拾
 仙年收入二十万九千九百九十九元

丙、百貨ノ輸送 百万担計 老担百万斤運賃拾

仙年收入十万元

丁、乗客毎日三百元 年收入十萬八千元

右ヨリ保線費二十万元ヲ差引キ純利益六十八萬八千元

一、國家ノ利益ニ関スル計画

甲、鉄道ニテ塩ノ輸送ヲ行フハ高運官運

ノ密輸ノ弊ハ禁セスレテ自ラ絶ヘ私ヲ

化レテ公ト為スノ塩ハ少クモ百二十万包

ヲ得ヘク隨テ政府歳入増加ハ塩稅ニテ

三十一萬五千兩鹽厘金ニテ百二十万斤

文

乙、塩ノ輸送上各處ニ稅取歸役所ヲ

在南京日本領事館

設立スルノ必要アリテ治道ニテ私塩取締

ノ為メ塩卡砲艇巡防隊等ヲ配置シアリ

テ其經費ニ於テ毎年歳出二十万兩ヲ減

少ス

一、海屬人民ノ利益ニ関スル計画

甲、海屬屢々水災ノ患アルハ固ト洪澤湖

内ノ運河淤塞ニシテ水量ヲ充分容納

スルコト能ハズ塩河ニ亦々六壩横梗シテ

水ヲ漏スル能ハズシテ六壩ハ専ラ蓄水

ノ場処ト為リ塩運上ヨリ民田ニ至ルニテ

則チ此害ヲ受ケルル甚々大ナリ以前壩

ヲ築キ壩ヲ開クニ官民互ニ争ヒ屢々

人命ニ関スル事件發生ス鉄道ニ依

塩ノ輸送ヲ為スルヲ得ハ則チ六壩ヲ常年
開放シテ自ラ水災ノ患ナシ

乙、海属ハ塩ノ密輸及ヒ強盗ノ巢窟タル所ニ
シテ往々數百人徒黨シ連リて各村ヲ却
擄シ官力緝捕スルモ實ニ力及ハズ鉄道
通スレバ江北提督ハ派兵半日ニシテ即チ
ニ草賊ノ巢窟ニ至ルルヲ得咸チ畏憚シ
テ自ラ其患弭ムベシ

丙、海属ノ土貨ヲ海外ニ輸出シ洋貨ヲ輸
入スルニ目下轉運極メテ困難ニシテ高
務ノ發達容易ナラズ鉄道竣工ノ曉ニ
ハ轉輸最便ニシテ農工商務ノ振興期
ニ待ツベシ

在南京日本帝國領事館

丁、海属ハ風氣閉塞シ交通不便ノ為メ文
明ノ輸入最モ困難ナリ一タビ鉄道開通
レバ視學教員ノ如キ至ラズシテ仍ホ海属ヲ
以テ畏途ト為ス

一、賑務利益ニ関スル計画

甲、海属本年ノ水災ハ實ニ光緒丙午ノ情
形ヨリモ甚シキ慘状ヲ呈ス屢々新聞
ニ掲載セラルル如ク約計三属ノ賑
撫スヘキ者五十万人一人毎日三十文ヲ賑
恤シ本年冬月ヨリ来年四月ニ至ル迄
計百八十日一人錢五千四百文共計二百
七十万千文ヲ要ス然レニ金庫空耗ニシ
テ洗フカ如ク官ノ賑恤極メテ困難ニシ

邑ニ富紳少ナリ勸捐易カラズ此ニ於テ速カ
 ニ路エテ辦セバ饑民土石ノ工費一百万兩
 ヲ得ヘシ即チ官賑一百万兩ヲ省ク者ナリ
 乙、丙午ノ饑民ニシテ清江浦ニ集リタル者五十
 万ノ多数ニ達シ揚州鎮江南京亦々集ル
 者二三十万ニ至ル旅費ヲ給シテ乘ヨリ本籍
 ニ送還シタルが回藉ノ後仍チ賑撫ノ由
 要アリタリ若シ早ク工事ヲ起サシムルハ
 賑勢中ス仍チ前轍ヲ踏ミ更ニ江淮
 ノ治安ヲ擾乱セシムル恐ル
 丙、海屬災重此ノ如シ例ニ依ルトキハ應
 サニ奏請ノ上國帑ヲ祭シテ賑濟ス
 マキ者ニシテ之レヲ改メテ借款ト爲シ
 在南京日本帝國領事館
 年七厘ノ利息ヲ附スルハ十五年ヲ經
 過セハ即チ利息ハ元金ヲ超過スマレ此
 外元利ハ仍チ毎年々賦トシテ返還ス賑
 撫之法此レニ過クル者非ス
 以上三件中第一第二ハ不得要領ノ決議ニ候得
 共第三ノ案件ハ總督巡撫トシテ相当ノ考慮
 ヲ要スル建議案ニ存セ候処督撫等ハ如何ナル
 處置ニ出ルヤ注目ノ値存セ候其消自利明瞭
 ノ上ハ重テ可及報告候得共不取敢此段及
 報告候敬具

明治四十二年十二月二十日 警務局

第五の號

第一課

明治四十二年十二月八日

在漢口

總領事代理 渡邊 吉



外務大臣伯爵小村壽太郎殿

湖北諮議局開會中ノ模様及
議案報告之件

十月十四日開會十二月二日閉會セル間
地ノ諮議局ハ全員八十三名ニシテ議長
シ号慶壽副議長ヲ湯化龍夏事

在漢口日本帝國領事館

康ノ兩名トシテ創設ナル、似ズ議事
状態極メテ整頓シ殆ド議員欠席
スル者無ク熱心ニ議事ノ遂行、勉メシハ
清國トシテ實ニ豫想外ノ好結果ナリト
云フバ、唯ダ議事演說ノ向性々無
益ニ過激ノ言論ヲ弄シ快トスルノ弊風
ハ其一大缺點タルシ免レズ

湖北ヨリ選出スルキ資政院議員五名
ハ十二月二日諮議局ニ於テ互選シ行ヒ
十五名ノ候補者ヲ選定シ右十五名中
ヨリ總督ノ意見、依リ五名ヲ選出スルニ
決シタリ互選ノ最高点数者ハ胡柏
年陳國瓚鄭璜談鈺黃文潤五名

手
通
七

第3門

3787

十、開會中、議案大、如シ

一、籌辦荒政案

二、急籌裁汰吏役案

三、曹頌呈及積弊案

四、振興工業案

五、調取學務公所資派外省游學生

經費及本公所歲出入報冊

六、應城宜立石膏公司案

七、秋米改征折色案

八、學務議案

九、森林議案

十、森林勸辦所規則案

十一、禁烟辦法議案

在漢口日本帝國領事館

十二、鐵路拒借外款案

十三、鐵路籌款案

十四、湖北廳州縣命案報驗規則案

十五、籌款興學以廣教育案

十六、改軍為兵案

十七、請提准鹽運商遵章應減款項

案

十八、清厘驛站空額案

十九、議裁驛站案

二十、興茶業以開利源案

二十一、規復應鹽案

二十二、禁種洋煙案

二十三、籌備警察辦法案

二四 董議負慶雲資格審查之件

二五 黃議負資樞資格審查之件

二六 整頓湖北吏治案

二七 劃交稅款案

二八 除酒稅肉捐案

二九 查核發行官票以杜後患案

三十 裁汰教員以宏教育案

三一 籌經費以辦自派案

三二 整頓錢漕案

三三 杖江附生曹孝原陳請軍田估價

縮書指冊案

三四 清舊款以辦新政議案

在漢口日本帝國領事館

三五 照章核減典息以紓民困議案

三六 整頓實行規則議案

三七 建始縣季紳廷舉等陳請糾奉

前縣令金策先人負詐案

三八 南漳縣馮紳仁徐等陳請彈劾

趙令傳流案

三九 講求宜防以除水患案

四〇 請求宜防以除水患案 增補附

四一 整頓堤工案

四二 堤工議案

四三 官員行裁汰書及案

四四 革除官吏紳董積弊案

四五 礦務議案

四六 除盜安民議案

四七 請撤兩湖賑糶米捐補卡案

四八 足兵食以保治安案

四九 請力爭實地調查案

五〇 劃一訟具案

五一 鐵路協會陳請書

五二 張乃所陳請移氏議案

五三 覆議學務案

五四 清查戶口案

五五 鐵路改案

五六 修正整頓錢漕稅契案

五七 修正關於書役官更案

五八 續修湖北通志案

在漢口日本帝國領事館

五九 籌辦積穀案

六〇 清丈田畝案

六一 籌辦荒政以紓民困案

六二 革除糧券更換百甲案

六三 陳邦毅陳請糾奉孝感縣令

案

右册參考迄及册報告復敬具

郵政省

郵政事務局

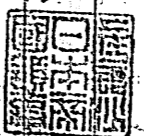
公信第一四七號

第三三二四七

明治四十二年十月三日

在長沙

副領事村山正隆



外務大臣伯耆守村嘉吉郎殿

湖南省諮議局閉會報告ノ件

本省諮議局ハ去清曆九月日(陽曆十月十日)ヨリ閉會
長沙府學明偏黨ヲ假議場トシ章程ニ據ル四十日ノ外更ニ十
日間延期ニ清曆十月十日(陽曆十月十日)迄應以下地方行政
官一同臨場閉會式ヲ舉行シタリ

諮議局閉會中ハ一々閣道ヲ俾テ紹介ヲ求ムルニ非サレハ傍聽ヲ許
サス且ツ日々ノ議事情況モ一切世上ニ公表セサルヲ以テ詳細ヲ知
悉スルニ困難ナリシ為メ今尚ホ査査中ノ事件モ有之事能ニ
鑑ミ御返報可致候得共大体ニ於テ無事結了シタルモノ
如ク不取敢比致及御報告候致具

在外公館

印あり

五方

第3門

第3門

第3門

公信第二七號

明治四拾貳年拾貳月拾參日

在南京

領事 井原真澄

外務大臣 伯島村壽太郎殿

江蘇諮議局決議案ニ関スル報告

端方兩江總督時代上海新聞社買収策ヲ
講シ夫カ爲メ鮮チカラルニ經費ヲ支出致居候處今
田右新聞紙買収政策ニ関シ諮議局ハ左ノ通り
決議致候

華陳官官商報案

在南京日本領事館

上海現行中外日報輿論時事報申報ハ或ハ紙
如ク官費或ハ半官費ヲ以テ發行シ毎月官ヨリ
左半補助之ニ金額亦大ナ不同シ且外國文上
海多ク此如キ各官衙署局及官立學校ニ義務
購讀セシメ補助ノ點ト爲メ前月十五日發行ノ序
洋官報所載ニ據ルニ本省財政整理局ヨリ財政
總局ニ移牒シテ同局ヨリ照復タル公答ヲ見ルニ
二月七月中ニ已ニ申報館ニ補助シタル金額湘平
銀一萬八千九百餘兩ニシテ其他歷年中外日報
時事報ニ補助スル額以テ推知スルニ江省財政局
一處ニ就テ見ルニ已ニ多ク夫レ補助額銀三千兩
百兩アリ其他各省官衙局署及ニ學校ニ義務
購讀ヲ爲サシムル額モ亦多推知スルニ難ク夫レ各

報館ノ經費ヲ見ルニ相平銀九千五百兩トアリ此
 項ノ經費ハ報館ノ時日習ノ用ニ供スル者トシテ
 知事トシテ年上ノ報館ニシテ任々本者行政官
 ノ開ク所ニシテ初メ官爲メ自ラ其私囊ヲ開ク官
 ニシテ者ノ名ヲ冒スト雖モ清議ヲ汚乱シ情理上大
 ニ不可ナリ人民義務負担ノ關係ヲ除キ隱忍相
 安スルモ今ハ已ニ官官ノ商報タルヲ知ル以上ハ本者
 ノ官金ヲ支出シ居ルニ明ナリ奏定章程第二七条
 ヲ查照スル所ト本者ノ官紳ニシテ違法ノ件アルハ
 詔儀局ハ確タル証拠ヲ指明シテ督撫ニ呈シ查
 辦スルト規定アルモ事開局以前ノ事官員十
 ルヲ念ニ章程第三七条ニ照シ其不可ヲ議決ス
 ルハ如シ

在南京日本領事館

甲、不可行ノ理由

一官報ハ官ニ於テ其責任ヲ負ヒ商報ハ商
 其責任ヲ負フ官ニシテ商名ヲ冒ヤシテ新聞
 紙ヲ賣ル此如キ憲政ナシ
 一新聞官業ハ國家行政ノ經費ニ非ズ乃チ
 本者ヲ以テ強テ負担ヲ加シム此如キ
 稅則ナシ
 一官業ニハ必ず損益アリ官ニシテ商報ヲ管
 ハ乃チ本者ヲ以テ歲出數千兩ヲ費ヤシテ
 天府止供ニ比ス此如キ國法ナシ
 一外國新聞紙ハ文字同シカサルノ勿論ニシテ
 爲る者有ク心即チ官長ニ指テ能ク受
 テ讀クモ亦多強ニテ閱讀セムル理ナシ

齊蘇兩屬官署局所及官立學校ヲ義務
購償セシメ各々毎年志士金兩ヲ費シ口也上海
ハタルニ其補助ヲ餘屬ニ取ルニ同接ニ人民
ヲ取者ニテ本有官民ヲ既テ悉ク外商ノ年
馬ト爲之者ナリ此等政体ナリ

改正方法

一上海於官商名ヲ買カス中外日報購時
事報申報ハ億ガノ即日商人ニ返還シテ官
金支出ヲ停止スル

一上海於官商名ヲ買カス中外日報購時
事報申報ハ官ヨリ資本トシテ支出タル金額
還納セシムル者ニ返納スル能ハサル中ハ獲
得ト取極タル官吏ヲ查明シテ辨償セ

在南京日本領事館

一上海於官商名ヲ買カス中外日報購時
事報申報ハ官ヨリ資本トシテ支出タル金額
還納セシムル者ニ返納スル能ハサル中ハ獲
得ト取極タル官吏ヲ查明シテ辨償セ

第...門

第3門

公信第二七五號

昭和十三年十月九日

五五

總務課

外務省

駐天津日本總領事館

昭和十三年十月九日
外交部
駐天津日本總領事館

| | | | | | | | | | | | | | | |
|-----|-----|-----|-----|----|----|----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|
| 陳樹楷 | 張銘鈞 | 籍忠寅 | 于邦華 | 李 | 王 | 新樹 | 劉春霖 | 蕭甯鈞 | 高陽鈞 | 朱旆鈞 | 葉強鈞 | 任邱鈞 | 霸州鈞 | 大興鈞 |
| 貞生 | 生負 | 生負 | 生負 | 生負 | 生負 | 生負 | 生負 | 生負 | 生負 | 生負 | 生負 | 生負 | 生負 | 生負 |

REEL No. 1-0675

0095

八月二十六日陽九日午九時開 開會後午日三時三十分閉
日有餘諸君が概 として生議は七時半に先づ
議長の年々感仰りぬあり存案は諸君推薦
に依り議長より先づ方力及ぶ議案は進行
進行の時期既満するを議案は決議に至りし
多きに宜くお慰められし何なり切らざるは諸君
常御愛顧に務めし持て議案はの意願に依り
又引渡すの留るにや常置多し必力諸君
進行の案は其餘の案を以て之より全段ノ未
地方自治云々の案は宜く押しの基礎トし
之らんは諸君の多君に於て之れを先づ研究
するべき事ヲ仰ぐ云々

八月廿一日 同紀名トシ掲載之レヨリ議案の議案

駐天津日本総領事館

ノ事会ヲ告ぐは必ク有之也
之ヲ要スルニテ期議の會期平日の如ク其
大半の諸君の準備其他に空費を先づお
多ク議案は多分おこなふ事ノほ
之ラハ二十餘件ノ議案ありて之れを以て
之ヲ以て會期延期スレバ己の得たる
程ヲ毀損若しは結果ヲ得がらざりし
必ズアリトシテは諸君の互に於ては
制度既初ノ事案ニ属スルニテ
テ云々之れを以て各事其方會見
局トシテ先づ強定ニ成案ヲ以テ
の向シテ各事トスルニテは必ズ
ノ電報ヲ視て之れを以て批評
ノ事トシテは必ズ

多數の新式並に口舌を素直に言明すは自国制度
ノ精神ヲ十分ニ得以得るは予んおのづか
地方法律條約ノ論議ニ其用裁ノ先外交ノ問題國政
問題ニ立入らざるは彼等ノ審議ノ尾ニ其地方法律
件序事ノ口頭論議分志シテ了り之レ立於人特有
ノ誇大ニ政治論ニ耳ヲ傾ケ易キ性格ト各議員地方
自治行政條約ノ精神ヲ充分ニ吾國ニ植ウルノ必要ニ
基テラトシテ其分己ハ得見現象トシテ才ニ溢議員
議員ノ概多ク是等條約ノ對シテ其利益不極心
ノ觀テは彼等ノ會議中ニ口頭論議ニ於テ其
ニの植ウル必要ニ其分己ハ得見現象トシテ才ニ溢
ニ餘念ヲ有シ然レバ其會議條約ノ運用ニ關シ
少費ニ彼等ノ事トシテ己ハ得見現象トシテ才ニ溢
自治制度ノ前途ヲ觀テ其分己ハ得見現象トシテ才ニ溢
得見現象トシテ其分己ハ得見現象トシテ才ニ溢

駐天津日本總領事館

告
器具

明治四十二年十二月二十七日接受

公信第一九二號

明治四拾貳年拾貳月十三日

在南京

領事 井原真澄

外務大臣伯耆守村壽太郎殿

江蘇

大外

江蘇諮議局決議ニ関スル報告

數年前より清國各省に於ては、金融機關トシテ官銀号ナル各目ヲ用テ、半官半民ノ形ニ銀行ヲ設立シ、此ノ銀行ニ又々其者ヲ鑄造シ、銀元銅貨等ヲ發賣シ、寧ラシク兼テ紙幣發行ヲ許可致居候存テ、今官銀号ハ純然タル者ニ官

在南京日本領事館

立銀行ニ有様ナル故ニ紙幣、等々無制限ニ發行シ、爲メ内外有識者ハ頗ル金融市場ニ於ケル弊害ヲ憂慮致居候処、江蘇諮議局議員中南京、各痛官銀号並ニ蘇州官銀号ニ関スル質問案ヲ提出シ、議決上、兩江總督ヲシテ、今銀号等、紙幣發行高並ニ其準備金額等ヲ詰本是シタル、兩江總督ヨリ、田君ヲ存通リシテ、以テ今銀号其内容、一班ヲ類フニ足ル者ト思ハ、候條、茲ニ及譯送候、故具
甲紙幣發行ニ関スル件

一紙幣發行高

總局ニ於テ、月々市道發行シ、元田銀紙幣十九万三千字、元各令局ニ於ケル者、田銀紙

幣百(十三)千(五)元(三)共計(円)銀紙幣二百
二十五(千)四百(十三)元(三)其種類(一)元(五)十
元(三)種(ト)ス

一 龍元 (清國發行) 紙幣及鷹元 (円銀)

紙幣印刷枚
本局(於)印刷(シ)龍元紙幣(百)五十五(千)
四百(七)百(九)鷹元紙幣(四)百(三)千(七)百(七)元(内)已
帳簿(登記)シテ番号(ヲ)附(シ)テ者龍元紙
幣(三)百(十)千(五)百(九)千(七)百(九)鷹元紙幣(二)百
七(千)五(百)九(十)引續(キ)千(千)續(中)十(ル)者龍
元紙幣(三)百(三)千(八)百(五)千(九)鷹元紙幣
二百(三)千(五)百(二)千(九)
一 紙幣(番号)

在南京日本領事館

本局(於)已(ニ)番号(ヲ)附(シ)タル者龍元紙幣
五百(二十四)千(四百)七(百)九(十)元(三)共計(一)千(六)百(三)十
三(百)字(每)字(一)千(号)但(内)起(字)号(十)之(紙)幣
(百)枚(鎮)字(号)一(元)紙(幣)七(百)枚

乙 發行制限(ノ)限(ル)件

一 發行(始)其(數)ヲ(預)定(シ)タル(否)ヤ
發行(始)其(數)ヲ(預)定(シ)タル(否)ヤ
發行(始)其(數)ヲ(預)定(シ)タル(否)ヤ
發行(始)其(數)ヲ(預)定(シ)タル(否)ヤ

一 各(國)發行(ノ)限(ル)市(面)情形(ヲ)斟酌
スル(否)ヤ

円銀紙幣(或)人(紙)局(於)發行(シ)或(者)
各(局)ニ(轉)送(シ)上(奏)行(ス)者(十)市(均)シ(テ)市
面(需)用(ノ)情形(ヲ)斟酌(シ)テ(發行)多(寡)

標準ト爲ス

一 度支部奏定限制濫發鈔票專章第

九條ハ殆爾銀号ニ於テ照辦スルヤ否ヤ

部章規定ニ宣統二年ヨリ起リ各處

一 紙幣ヲ陸續田收スル者ニテ保ト各處

於テ紙幣ヲ濫發シ準備金ヲ以テ

市面ヲ霍乱セシメタルニ依リ之ニ加豫防

策ヲ施サルヲ得ス計ルニ本局發行ノ

紙幣ハ原定額數僅カニ割ニシテ其

準備ハ分別積立テ又ハ貸出ヲ行ヒ蓄

民ニシテ紙幣ヲ持テ硬貨ト引換ヘ来

ル其ハ直金ニシテ支拂ヲ爲シワヤリヲ待来

度支部於テ紙幣ヲ發行スルヲ待テ

在南京日本領事館

即チニ資本本金ヲ備ヘテ度支部一紙幣

ヲ購ヒ本局發行ノ紙幣ト陸續引換

フル筈ナリ並来各國ノ紙幣内地ニ流通

シ實ニ莫大損失ナリトス本局發行ノ紙

幣ハ市面ニ於テ流通靈便ナルノナリ

且利權回收ノ意味ヲ有ス已ニ總督ニ

上申上テ部ニ咨シテ案ヲ定テタリ

一 宣統二年以後ニ割ヲ回収スル實否設

本條ニ已前條ニ於テ明晰記載シタリ

一 準備金ハ現款十分四アルヤ否又其餘

十分アルハ確定ナル証書等ヲ以テ準備シ

アルヤ否又現金及ニ証書ヲ各該局ニ保

存シアルヤ或ハ別ニ儲蓄區アルヤ

總局より紙幣發行は毎日均等報告あり
 二千円内外を以て出さず而して毎日庫中ニ入ル
 現金ノ報單も亦多し十兩五兩ニテ十分四以
 上ノ各分局發行ノ紙幣毎月出入統計ハ約
 百十餘千円ニシテ庫中ニ存在スル現金ハ各
 割以上ニ達セリ其餘ハ十分六割ハ有也ナ
 直屋ニ貸付ケル或ハ商店トシテ往來或ハ貸物
 依備ニテ貸付ケル均等確責ナリ記
 憑ヲ取リテ之ヲ總局各分局ニ保存セリ
 用心ノ郵便運使及文憑籌所等各街
 一ノり支出スル資本金ハ三十五萬兩又各司
 関局ノ敵ノ預金百四十四千餘兩アリ
 困窮ノ償ニ以テ市面ヲ維持ス

在南京日本領事館

明治四十三年一月四日接受
警務政局
附屬書類添附第一號
受第 七九 號
在芝罘日本領事館

シ
シ

公信第一九七

受第 七九 號

明治四十二年十二月十七日

在芝罘領事館

副領事 土谷久米藏



外務大臣伯爵小村壽太郎殿

諮議局閉會其他

關不件

當山東諮議局四十日間開會期

日ヲ終了シ常駐議員十六名ヲ選奉

シテ濟南府駐留セル清歷十月十日

ヲ以テ人懇閉會式ヲ舉行ス當日山

在芝罘日本領事館

東巡撫孫室琦カ為シテ演說

要領并ニ同局カ孫巡撫ノ提案

對シテ各辭シテ事項新聞紙ニ相見

美ニ付別紙ニ通り大要譯出御報告

及口候教具

第3門

(送付未決三箇月)

REEL No. 1-0675

0103

孫巡按ノ諮議局閉會

式ニ於テ演說要領

我が諮議局ノ開設ハ今年ヲ以テ
嚆矢トシ諸君ガ八月一日(清曆)當地ニ集
マリ九月一日ヲ以テ開會シ今日閉會ヲ告
グルニ至リ其間數句諸君ガ諮議局内
ニ於テ討議研究スル所ノ議事ハ予ガ
提議スル所ノ案件ト其ノ大旨ニ於テ畧
ホク付合シ比自是山東省ノ為ニ利ヲ興シ
弊ヲ除クモシラ何レモ應サニ辦不可キノ事
ナリ而カモ應サニ辦カザル事モ濠洲カニ
辦不可キ者アリ予未知法政ヲ學ハスト
魚モ中國ノ吏治、民生ノ疾苦共ニ大体

在芝罘日本領事館

ニ於テ知得ス予原ト守舊ノ人ニアラスレテ
維新ヲ研究スルヲ以テ人念トス故ニ凡ソ民
間ニ利ヲ興シ弊ヲ除クノ事ニ力ヲ及ブ
限リハ断レテ人ニ推諉ス又諸君ノ中ニハ
曾テ外省ニアリテ吏治ニ閱歷ヲ有レ或ハ曾
テ法政ヲ學習シ或ハ地方ノ公益ヲ實際ニ
辦いたルノ経験ヲ有レテ諮議局開設
以來日ニ討究シ而シテ能ク予ト主義ヲ
同シクシタムハ予ノ實ニ欣幸トス所ナリ但
事ニ輕重緩急ヲ須ク漸ク逐クテ處
辦不可キナリ云々

孫巡按ノ商務ニ關スル議案
ニ對シテ諮議局ノ答辯

(神戸永英三商店)

山東省南北、要衝ニシテ南ハ江蘇、
 北ハ直隸ニ達シ、烟台青島ハ近ク
 海ニ接ス、將來諸鐵道完成シテ汽車
 汽船、聯絡ノ告ゲ、交通貿易發達ハ
 誠ニ前途多岐ニ觀ス、然レ今日尙ホ商
 業遲ニトシテ振分ハ一切ノ經濟事情未ダ
 均シク及テ達セザルハ是レ商務ノ未ダ整頓
 未ダ並行ク開設セザルハ即チ今ノ商部
 早程ヲ按ズルニ第三條ニ凡ソ商業繁
 盛ノ所ハ省城ニトシテ其他ノ都府タルヲ問フ
 商務總會ヲ設ク可トス、故ニ濟南府
 烟台ハ先後ニ設ク、商務總會ヲ設ケ
 在芝罘日本領事館
 タルモ他ノ要所ニ於テモ宜ク分會ヲ設ク可レ
 尤モ各州縣中、濟寧、周村等ニ
 於テ已ニ分會ヲ設ケルモ其他ハ未ダ之ヲ
 勸業、宜ク之ヲ設ケ、之ヲ促ス可キナリ
 而シテ其總理、協理、課長、主任、宜ク
 章ニ從テ、選任シ、總理、課長、主任、宜ク
 見モノヲ選ビ、協理ハ總理ヲ補助ス可ク、又
 其内規トシテ、先ダ巡檢ノ許可ヲ得テ、之ヲ公
 表シ、會計、其他ノ報告ハ一月、一回先
 報告ヲ提出シ、以テ紛亂ヲ防ギ、又之ヲ省城ニ
 於テ商業會議所ニ移牒シ、其參考ニ
 供ス可レ、而シテ其任務トシテ、各會員或ハ
 其地ノ紳士ニシテ、新ラタ人會社ヲ設クセト

(録) 永英三商部

此ノ種ノ學子堂ハ專ラ、商法、商理、商情、
 商品等ノ諸事ヲ研究シ、商業ノ人オ
 ヲ養成シ、其學期ハ餘リ、永キニ涉ラズ
 宜ク地方商務ノ盛衰ニ依テ酌量シ
 又其學子課程モ土地ノ情況ニ從テ學子
 費ノ如キモ成ル可ク節約ヲ為シ以テ貧生ヲ
 教育スルニ便ナラシメ、又已ニ成立セル商會
 附屬ノ學子校、又ハ商業補習學子校ハ
 已ニ商家ノ子弟ヲ入ラシメ居テトモ、尚ホ
 夜學子校ヲ開キ、一ケ年位ノ短期間ヲ
 以テ一般ノ竹間、易七學子課ヲ習得セシム可
 ク、
 一、商會中宜ク速カク附屬ノ商業學
 堂ヲ設ク可シ

在芝罘日本領事館

此ノ種ノ學子堂ハ專ラ、商法、商理、商情、
 商品等ノ諸事ヲ研究シ、商業ノ人オ
 ヲ養成シ、其學期ハ餘リ、永キニ涉ラズ
 宜ク地方商務ノ盛衰ニ依テ酌量シ
 又其學子課程モ土地ノ情況ニ從テ學子
 費ノ如キモ成ル可ク節約ヲ為シ以テ貧生ヲ
 教育スルニ便ナラシメ、又已ニ成立セル商會
 附屬ノ學子校、又ハ商業補習學子校ハ
 已ニ商家ノ子弟ヲ入ラシメ居テトモ、尚ホ
 夜學子校ヲ開キ、一ケ年位ノ短期間ヲ
 以テ一般ノ竹間、易七學子課ヲ習得セシム可
 ク、
 一、商會中宜ク速カク附屬ノ商業學
 堂ヲ設ク可シ

（神戸水産三商會）

可レ
 此、種ノ研究取ハ専ラ商人間ノ聯
 絡ヲ保ツノ機關ニシテ各人會員ラシテ各
 地ノ模様ヲ視察スルニ名シ殊種ノ商品
 接シタル場合ハ其行情、價格等ヲ逐
 一記載報告シテ商務上ニ考ル材料
 供ス可ク其他商品ノ販路ヲ講究シ製造
 方法ヲ知悉スル等ノ商工業、及居達ニ資ス
 ルハ目下ノ要務ナリトス
 商務ノ整頓期スル方法上未述ナル所
 如レ而シテ商業學堂ハ人材ヲ造就シ
 商務ヲ研究スルニ足リテ商務研究所ハ智
 識ヲ交換シ商業ノ及居達ヲ促スニ足リ又各地
 在芝罘日本領事館
 ノ商業人會議取中既成ノ煙台、濟南、南
 府及周村、濟南ニモ益改良ヲ圖リ其ノ
 未ダ設置ナキ所ニ在ラハ竹間易方法ヲ以テ
 之ヲ設立スル庶幾クハ是レヲ商務刷新ノ
 第一着手ナリ可ク此レ以後漸ク益發
 達シ盛況ニ赴クベキ教員トシテ要セザルナリ

(録戸永英三商館)

明治四十三年一月六日接受 主權政務局

公信第二七九號

受筆 四四三 號

第一課

明治四十三年十一月十日

主權

赤

總領事 少由酒吉



外務大臣 陸奥 宗元 閣下 謹啓

昨由 陸奥 閣下 議定 陸奥 閣下 議定 陸奥 閣下 議定

第3門

陸奥 閣下 議定 陸奥 閣下 議定 陸奥 閣下 議定

駐天津日本總領事館

陸奥

陸奥 閣下 議定 陸奥 閣下 議定 陸奥 閣下 議定

陸奥 閣下 議定 陸奥 閣下 議定 陸奥 閣下 議定

| | | | | | | | | | | | | | | | |
|--|----------------|-----------------------|---|--------------------|----------------------|---|-----------------|---|------------------|--------------------------------------|---|--|-------------------------------------|---|--------------------------|
| <p>新設ニ設キルル五ヶ如ク、所轄區域ノ裁減シテ 級教育ヲ養成スルニ設キル小學校及育ヲ普及ス ルニ件</p> | <p>監査部改訂ノ件</p> | <p>麻州知事ニ財政所ヲ設ケルノ件</p> | <p>直隸全省有テ檢テ開闢中ノ在候ノ洋田ニ シテ冒濫ヲ防ガノ件</p> | <p>許江ヲ起シ種弊剔除ノ件</p> | <p>麻州知事有テ統計ノ改良ノ件</p> | <p>鐵道監督官ニ種種ノ加テテ事務ヲ統一シ民間 ノ資金ヲ取テルノ件</p> | <p>盛名種弊剔除ノ件</p> | <p>海沱河ヲ挑浚スル事及シ滄河ヲ運河ニ變換スル 事ニ關スルトシテノ件</p> | <p>駐天津日本總領事館</p> | <p>各地ノ種種ノ改良ニ種々ノ條々民間ノ便宜ヲ 計ルノ件</p> | <p>田房牙田及地家屋賣賣ニ關スルノ事官 事官的ニ考テ種々ノ弊害ヲ除去スルノ件</p> | <p>挑向所屬ノ各府知事及知事長牌頭等、 後ノ種種ノ弊害ヲ治メ只屯長ノ後ノ之ヲ置スル 事ニ關スルノ件</p> | <p>許江事件ニ關シテ種々ノ新設、進行ヲ 維持スルノ件</p> | <p>巡警整頓ニ關シテ種々ノ申出候 差儀(若役)整頓ニ關シテ申出候</p> | <p>綠島ニ支給シテノ錢糧ノ檢査官長ノ件</p> |
|--|----------------|-----------------------|---|--------------------|----------------------|---|-----------------|---|------------------|--------------------------------------|---|--|-------------------------------------|---|--------------------------|

REEL No. 1-0675

0109

経三充テ行政改テ三充テ建議案
可決ノ件

順天府監製整頓建議案ノ決件

永定河古渡奉会設立建議案ノ決件

直隸古河縣籌辦三陸建議案ノ決件

存省監製局對照支府行政ニ関ル提議ヲ
定メ以テ充テ第一ニ建議案ノ決件

其籍ハ其地ニ出テ他議及トテ吟成
除去ノ事其ノ別立者人ニ駐防ハ存留對其人

常置議及ノ定メテ充テ第一ニ建議案ノ決件

大興宛平兩縣ノ知法區域變更ニ関シ建議案ノ決件

紫古堡ヲ古堡ニ改メ民間若シテ金出テ建議案
ノ決ノ件

駐天津日本総領事館

田収家産其者ニ際シ檢査者ヲ知縣衙門
ニ納ムル事其ノ免除テ充テ第一ニ建議案ノ決件

以上共計三ノ件ニ悉ク通過シテ充テ第一ニ建議案ナリ

文書課長 生

明治四十三年一月十日接受 16

明治四十三年一月十日

日 起 草

日 發 遣

第 一

第 一

第 一

第 一

第 一

第 一

政務局長

了

第 〇 四

明治四十三年一月十一日 第一九號

村大長

桂藏相

江蘇諮議局決議ノ關係件

外務省

江蘇諮議局決議ノ關係件ニ關シ

在南支并第條奉ヨリ別紙寫ノ通報告有

之候ニ付爲御參考右茲ニ及御送付候間御

査閱相成度此段申進候也 (大公使館及都督宛ニ限リ代リニ敬具ヲ用ク)

別紙機密受第シ五ニク 號並ニ附屬書寫添付ノ事